

LOBO 調査

早期景気観測

1月 日商調査日 1月10日～22日
当所調査日 1月10日～23日

LOBO調査とは
全国各地の商工会議所が参加して、日本商工会議所が実施する全国規模の早期景気観測調査。当所ではさらに、商工振興員の皆さまにも調査へのご協力をいただき、より地域に根差した調査を実施。

日商調査

1月の全産業DI ▲26・8
(前月比+2・6ポイント好転)

○中小企業の景況感

消費税率引き上げの影響や人件費の上昇、受注機会の損失など人手不足の深刻化の影響、原油価格を含む原材料費の上昇、コスト増加分の価格転嫁の遅れ、貿易摩擦や世界経済の動向、日韓情勢の行方など不透明感が増す中、中小企業の業況感は慎重な姿勢が続く。

○プラス要因

都市部の再開発を中心とする民間工事が堅調な建設業や、米中貿易摩擦・中国経済減速の影響があるものの、半導体関連に持ち直しの動きが見られ始めた製造業に加え、年末年始の長期連休により好調なインバウンドを含む観光需要の恩恵を受けたサービス業、小売業の業況感が改善した。

○マイナス要因

根強い消費者の節約志向や記録的な暖冬による冬物商材の不振、深刻な人手不足や人件費の上昇、原油価格の行方、世界経済の先行き不透明感を指摘する声も多く、中小企業の業況改善に向けた動きは力強さを欠く。

○先行き

先行き見通しDIが ▲26・9 (前月比▲0・1ポイント) 悪化。

○期待感

個人消費拡大やインバウンドを含めた観光需要拡大、補正予算など経済対策への期待感がうかがえる。

【関東ブロックの業況に関するコメント】

県の公共工事予算が秋の台風による被災地域の復旧に振り分けられ、当地域での公共工事の発注量は減っているため、売上の確保が難しい。しかし、人手不足が深刻化する中、技術者確保のためには冬の賞与を減らすわけにはいかず、昨年並みの支給を考えている(一般工事業)。

国土強靱化計画に基づき公共工事には大型予算がつき、好況を維持している。今後は民間工事に期待しているが、米中貿易摩擦が製造業に与える影響が大きく、受注していた工場の建設工事が昨年より延期されたままになっている(一般工事業)。

コスト増加分の価格転嫁がないまま、急な納品依頼や発注内容の変更があり、断ろうとすると取引停止をほめかされた(電子部品製造業)。

1月2日から営業を開始し、福袋の販売など初売り商戦に対応した。年始から穏やかな気候に恵まれたため初詣や初売りに出かける人が多く、にぎわいがあり、昨年よりも客足が好調で売上が伸びた。消費税率引き上げ後の消費の冷え込みが少し戻ってきた印象もある(化粧品小売業)。

当所調査

「全体平均DI」は

2カ月連続で悪化

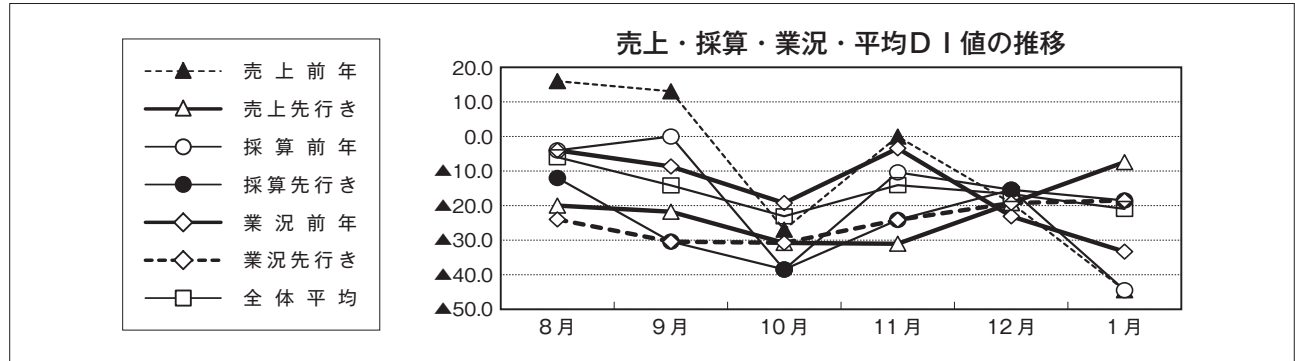
全体平均DIは ▲21・0ポイントで、前月に比べ ▲4・3ポイントの悪化。

項目別では、前月と比較し、売上前年が ▲25・2ポイント、採算前年が ▲29・0ポイント悪化した。

寄せられたコメントには「暖冬の影響で、来店数は増加傾向にあるが、以前として消費者の節約志向は強い」(菓子製造小売業)という声聞かれた。

水戸商工会議所商工振興員LOBO調査(DI値推移) (サンプル数40社)

項目	平成31年		令和元年				令和2年
	1月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
売上前年	▲ 11.1	16.0	13.0	▲ 26.9	0.0	▲ 19.2	▲ 44.4
売上先行き	0.0	▲ 20.0	▲ 21.7	▲ 30.8	▲ 31.0	▲ 19.2	▲ 7.4
採算前年	▲ 14.8	▲ 4.0	0.0	▲ 38.5	▲ 10.3	▲ 15.4	▲ 44.4
採算先行き	▲ 11.1	▲ 12.0	▲ 30.4	▲ 38.5	▲ 24.1	▲ 15.4	▲ 18.5
仕入前年	▲ 37.0	▲ 28.0	▲ 52.2	▲ 42.3	▲ 48.3	▲ 34.6	▲ 33.3
仕入先行き	▲ 44.4	▲ 28.0	▲ 56.5	▲ 42.3	▲ 24.1	▲ 38.5	▲ 29.6
社員前年	29.6	32.0	30.4	19.2	17.2	7.7	14.8
社員先行き	25.9	20.0	26.1	19.2	20.7	7.7	14.8
業況前年	▲ 3.7	▲ 4.0	▲ 8.7	▲ 19.2	▲ 3.4	▲ 23.1	▲ 33.3
業況先行き	▲ 11.1	▲ 24.0	▲ 30.4	▲ 30.8	▲ 24.1	▲ 19.2	▲ 18.5
資金前年	▲ 18.5	▲ 4.0	▲ 13.0	▲ 19.2	▲ 17.2	▲ 19.2	▲ 33.3
資金先行き	▲ 11.1	▲ 16.0	▲ 26.1	▲ 26.9	▲ 24.1	▲ 11.5	▲ 18.5
全体平均	▲ 9.0	▲ 6.0	▲ 14.1	▲ 23.1	▲ 14.1	▲ 16.7	▲ 21.0



*DI値(景況判断指数) = (増加・好転などの回答数-減少・悪化などの回答数) / 全回答数 × 100。ゼロを基準として、プラス値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものでなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりや意味するもの。